俳諧發句八百題

上

へ 5
4652
1

門 へ 5
流 4652
巻 1

一事庵史桀編

俳諧發句二百題

東京書肆 弘文館藏版

西行上人奥國修行のとき
よりつきはるく旅
友達

又陸一具

門春堂書

昭和十六年一月十一日
尼野貴英氏
寄贈

俳諧發句八百題　目録

春并歳端之部

立春　初丁　　明の春　　今朝の春
初日　　宿の春　　四方の春
宝舩　　年玉　　去年今年
メ飾　　飾縄　　飾竹
万歳　　鳥追　　猿引
初子日　卅　　小松引　　水祝
佛座　　さらべ　　五形
春寒　七丁　　冴返ル　　春の雪
雪解　　霞　　八丁　　八重霞
佐保姫　　長閑　　陽炎　九丁

初の夢　二丁　　初空
吉書　　初夢　三丁
門松　　門飾
節小袖　　嫁ヶ君　四丁
傀儡師　　松の内
薺　六丁　　芹
惠具　　薺
淡雪　　殘雪
薄霞　　鐘霞
東風　　春風

下崩 十丁
初艸
若草
蕗の薹
梅 十二丁
柳 十二丁
若芝
三ツ巢片
菊崩ル 十二丁
菊苗
二月 十五丁
春の艸
鷺
雲雀
積塔 十六丁
猫の恋
鶯 十四丁
嫁菜
種卸
苗代
春の月 十七丁
朧月
二日灸
暁夜
春の夜
菜の花 十八丁
青麥
大根の花
野犬狼
虎杖
苣苣
早蕨
狗脊
雀の子 十九丁
引鴨
小鳥引
鶏
春鳥
鳥の巣
蛙
鹿角落 二十丁
春の海
春の雪
春の山
汐干 廿丁
花 廿二丁
児櫻
家櫻
櫻 廿三丁
瀧櫻
嫦娥 廿四丁
庭櫻
櫻鯛
菫 廿五丁
山吹
麥鶉

吁小鳥
つく鳥 廿六丁
蠶
壬生踊
行春 廿七丁
春暮
春過ル
蛇
春惜
蜂
春尽

夏之部

更衣 廿八
初袷
古袷
賀茂祭
佛生會
杜若 二十九丁
燕
立葵
一八
鳶尾花
灌佛
明安 三十丁
端午
菖蒲
粽
柏餅
粟餅
粉餅
粔籹
水無月
氷室
氷
氷水
心太
心太突
心太切 三十一丁
蚊遣 三十二丁
蛍 三十三丁
蝙蝠
子規
茂り
竹の子 三十四丁
初茄子
初鰹 三十五丁
初時鳥
鵜飼
鵜匠

鵜川　雛　一夜雛
帷子　辻ゝ花　夏羽織
若竹　平二丁　今年竹　竹植
菖蒲　平二丁　花菖蒲　真菰刈
鉄線花　石菖　夏菊
酸漿花　蝉　平五丁　羽抜鳥
鹿子　覗猟　火串
夏氷　川狩　不土詣
炎天　日盛　暑
雲の峯　清水　平九丁　蓮　辛丁
ゝ白　眼波花　壬丁　八重葎
綿の花　茄子の花　十三丁　初真桑瓜
粽　廿九丁　角粽
五月雨　平丁　田植　卅二丁
橘　浴花
紫陽花　平四丁　瓢の花
紅の花　糸瓜の花
翡翠　鳧
氷室守　平六丁　氷餅
祇園會　夏日
夏の月　四十七丁　涼　平八丁
蒲の穂　白粉花
葎の花　釣葱
豆の花

梅干　水飯　一　葛水
茅の輪　夏神樂　五十三丁　夏拂
秋之部
初秋　一丁　残暑　初嵐
魂祭　三丁　新盆　魂棚
接待　四丁　草市　麻売
つと入　ゝ花　分　踊　露　五丁
紫苑　十丁　男郎花　九丁　蘭
蓼の穂　もろこし　十一丁　雞頭花
糸瓜　瓢　蓮の実飛
虻蚓啼　十二丁　松虫
艸花　天の川　二丁　盆の月
墓参　迎鐘
鼠黍　盆
朝顔　六丁　水槿　七丁
桔梗　萩
蓼の花　冬瓜
西瓜　秋草
若茣　蟋蟀
鉦虫
水の粉　心太
秋近

蜾蠃
引板　添水　鳴竿
竹の春　扇置　捨團扇
うそ寒　二日月　十五丁　三日月
待宵　名月　十六丁　今日の月
雨の月　星月夜　十八丁　初汐
秋風　二十丁　秋山　廿二丁　秋海
秋雨　田刈　廿三丁　稻刈
新米　今年米　焼米
鵙　廿三丁　後彼岸　廿四丁　九月
豆名月　后の月　どびろく　廿五丁
菊　野菊　廿六丁　蕎麥花　廿七丁
残る蚊　八朔　十四丁　田面の日
身に入　夕月　雫月
月　十七丁　秋の月
芒　十九丁　花芒
秋の川　秋の水
掛稻　落穂
猶雀　初雁
長月　十三夜
後の雛　九日菊
梨　橡突
秋の蛍　秋の蚊
添水　鳴竿
扇置　捨團扇
二日月　十五丁　三日月
名月　十六丁　今日の月
星月夜　十八丁　初汐
秋山　廿二丁　秋海
田刈　廿三丁　稻刈
今年米　焼米
後彼岸　廿四丁　九月
后の月　どびろく　廿五丁
野菊　廿六丁　蕎麥花　廿七丁

煤拂
豆うら 四十二丁
大晦日 四十三丁
冬混題 四十四丁
雪佛 四十七丁
十夜
大師講
散紅葉
枯野 五十二丁
柊花 五十四丁
早梅
鴛鴦
春待 四十二丁
厄拂
年の夜
初時雨
神送
會式
臘八
麥蒔
寒菊
枯蓮
水仙
寒梅 五十五丁
千鳥
冬木立
寒菊
大根曳
冬至梅
千鳥
春近
雜喉寐
午越
霜 四十九丁
神酒守
里神樂 四十九丁
寒垢離
山茶花 五十一丁
枯菊
石落花 五十三丁
八手花
冬至梅
冬蠅 五十六丁
落葉 五十丁
枇杷花
大師講
雪 四十六丁
翁忌 四十八丁
大師講
落葉 五十丁
枇杷花
八手花
冬蠅 五十六丁
蛎 五十八丁
年忘
年市
除夜
冬雨
翁忌
夜神樂
寒念佛
茶花
千鳥
行年
掛声
除夜鐘
雪 四十六丁
翁日 四十八丁
大師講
落葉 五十丁
枇杷花
八手花
冬至梅
蛎 五十八丁
鴨 五十七丁
海鼠
鵙
鶫子啼
鴛鴦
冬鳥 五十九丁
雁
夜興引
鵙
鶫
鵙
鶫
鵙
鶫

俳諧發句八百題

春之部

一事庵史琴 編

立春　春立つや　菊雄
春立つや　亀成
明春　水音の　由警
山の雪　松什
白雪の　梅室
樹の雪　立川澄
雪合の　高山

朝春

菊雄
駕長
蓬交
祖風
蒼虻
卜早
麥鳥
鄰山
南江
龜成
賀長

初烏

其の本もゝくろく初鳥　武州　碩布
同出なさの一ふし哥　静雨
一羽くゝ二羽ハ声や初鳥　尓弓
用の為に旅しそ哥　ヲリ　庚年
吟そめてそ今の哥　武州　貞雄
一ねもの空一とせの初ゝ哥　江戸　芦文
初空や向ふ山家の一重垣　素檗
初空や雲こゆる山の空上毛　連志
初日松しめの初日を産ゝ哥　乙人
長翠

宿の春　燕村

四方の春　江戸　孤村

吉書　初の筆よりも　闇更

初夢　初夢やさえ〳〵高き　啄秋

寶船　不二ばかり　玉岱

年玉　年玉の数をいうより　斗入

去年今年　去年今年　應々

門松　門松や睦まじ　葛三

初の筆よりも　江戸　孤村　闇更

海の上なる舟の方　江戸　孤村　闇更

うかぶもあるき　江戸　孤村　闇更

新らしく渡る初日の　江戸　孤村　闇更

以の字なるん　江戸　孤村　闇更

まつ六五郎　江戸　孤村　闇更

出ぬ日もかく　江戸　孤村　闇更

あるかの別　江戸　孤村　闇更

二見んく　江戸　孤村　闇更

見あきもの　江戸　孤村　闇更

吉書　初の筆　江戸　孤村　闇更

初夢やさえ〳〵高き　啄秋

寶船　不二ばかり　玉岱

年玉　年玉の数をいうより　斗入

去年今年　去年今年　應々

門松　門松や睦まじ　葛三

宿の春　燕村

四方の春　江戸　孤村　闇更

吉書　初の筆よりも　闇更

初夢　初夢やさえ〳〵高き　啄秋

寶船　不二ばかり　玉岱

年玉　年玉の数をいうより　斗入

去年今年　去年今年　應々

門松　門松や睦まじ　葛三

門餅　江戸梅木
志め餅　信州文帝
餅絽竹　雅月女
風のふつくら吉斎
雲ともゆる小百丈
松のみき里うま餅　羽州蕉素
志め餅ふれあひ江戸兎國
餅　弁　長翠

南小社　南楚
姉う君　乙二
万歳　雅嶺
梅の白くもめで笑ひ三千彦
三方月をまつ姉う君萬三
簑笠も庵の雪も晴う君荷乙
万葉や旅笠脱ぬ一桃
万葉や寿ぐ我もおもふ事静雨
万葉や年も我ぐ戦ひ把芝
万葉をよんで生る里の小松二仁
万葉をとの春こそ曲江
万葉や万の世界を金亀子

鳥追　春追や志賀の山路の関の清く統治山

猿曳　花猿の稽古するなる梢かな

俤僊師　俤僊師化粧の壺や梅の花

松の内　松の内

さゝら　董斎
譲物　碓嶺
梅室　玄旺
二三　椿堂
鳳朗　碓嶺
楓江

初子日　この里や岡の松やなるらむ

白雄　閑更　春鴻　保吉　葛三　成美　鼠月　雉啄　一桃　鷲山

信州　上毛　江戸

小松曳　　梅温尼

水祝　　さくお　江戸かく女

工書　梅野　詠帰　月君　静雨

尓弓　白雄　玉芝

葬

芹

佛座

汚泥をとゝのへ嚊ぐ　嘉奈寺

嫌ひ　連志

小畑のあぜ　三桂

いる支の高掛　椿海

きき程掛のの　阿号

開くさゝれ芹を活ひ　保吉

芹をきりの種　蕪村

まを吸て移もの　静雨

掛人をもの　志文

芹の茅生　連志

是寿ハ隣てる仏の座　梅室

五形　武州　秋臺
耕や処の分　江戸　伯夫
恵夏　春鳥
蕾　三平彦
　馬年
　長翠

春寒　羽州　桃吏
春の雪　啄秋
冴返る　一桃
　孚石
　春鴻
　葛三
　亀丈

淡雪　関夕

人のきえんとてふる雪も春ちかくなりてうすきを

残雪　江戸　市山

消ぬるもまだまの雪

雪解　信州　積翠

陰雪も春の陽と共に門の陽来るを

梢ともる迄のこる雪

雪　雄嶺

十日程みしまあるうち降つもる雪

雪　乙良

雪も降もやみつの雪

雪　易足

世を経ても降もやみつの雪

雪　女一茶

松葉の形見ともなる雪

雪　孤村

山の雪解するやうにかれもせぬ

雪　斗遊

解る雪のうちにも青みたる

雪　大坂　一肖

霞

霞　易足

春とやふるもあくる霞も松嶋

霞　清女　仙台

もやうつくしき霞もあめつちも

霞　芭竹　下毛

暗がりや向ひの山に霞こめ

霞　茶静

山の手も霞むほどなり橋の

霞　清湖　在江戸

霞こそ入日の色をうつしけれ

霞　香吹

松もれし戸口までくる霞かな

霞　不仙

水汲ハ霞の中の井戸の音

霞　呉翠

春山をいくつもかくす霞かな

霞　千秋女

霞むやわの雪きえ行ね雁の声

霞　真橘

八重霞　　信州　栄李
薄霞　　乙二
鐘霞　　斗六
佐保姫　　茶静
長閑　　春鴻
　　尚古
　　三平彦
　　春蛾
　　成美
　　護物
　　三平彦

陽炎

儿董
保吉
士朗
布川
真橋
東皐
三平彦
菖古
花光女
長翠

東風

春風

下萌や新なるの下萌やものそく穂ぬ麦の中
初草や雪ふれしかの下萌や雪ふる庵の鍵小
若艸や雪ふりつもる人出の行

雨紅女　董斎　三平彦　寥松　士朗　ゝ

暁臺　二平彦　竹有　静一　旬光　荷乙　素紀　連志　香吹

信州　雨紅

若芝

春の草　一名ほいろぐさ

蕗の薹　蓉とも云ふ

長翠
雄
白雄
曉臺
長翠
三千彦
里月女
きよの女
茶静
蕪村

梅温泉
上卄糸友
貞雄
庄内竈志
小哉
菁々
喜之尊
信州三俗
孔正
きく女
信州左梁

少庵を誘てもおもしろ柳うる　春嶺
春もまだ浅くふかく柳まとはれる
その新の長くふかく柳の屋こうる
年の内に立ちかへる柳の春こうる
四ツ谷の社家こうる　千枝女
裏二月雨こも時こうる柳作　東皐
いつうるも時こうる柳作　古翠
春こうの柳潜りこ戻りこうる　香吹
手折こ立こ雨ふる柳こうる　啄秋
聖り植ん柳こ春を待つる　奥州　与人
今止こ雨の降出こ柳こうる　武州　麓水
聞鳥　乙貞

梅こ月こうる立こ春こうる
立こ春こうる雪こ梅こうる
雪こ春こうる山里こ梅こうる
山里こ梅こうる明こうる
明こうる梅こ見こ夜こうる
二月こ見こ梅こうる
年こ立こ待こうる梅こうる
雪こ待こ一枝梅こうる
雪こ待こ梅こ月こうる
梅こ雪こ春こうる
春こ雪こ世こうる
家こ立こ梅こうる
家こ立こ梅こうる
老木こ梅こうる

菊古　省古　棟梨　市山　五栗　曰人　柳玖　叢鷺　長荘　芳文　椿海

娶菜

あら玉の梅の
今宵来ん人や待つ覧 梅 乙良
ちる時の名残や雪の 雨麦
ちるを見て玉椿きく 首丸
古郷まつや地神まつる 白雄
赤飯も出つ赤椿 長翠
神楽をするやうに 香吹
椿よりも雪よりもうき 西月
椿菜を出す日数の 伯夫
長雪さへ等の 静雨
七種も仰つるね 光玉
椿菜 二三

咲を喜ぶ春の
流迄も行ひさん椿
春ふかみ名所の梅
柳よわを待き春を
宿るもまさる柳
人のこゝろは猶の
手代陸へき初ふき柳
雪の月梅を新
山風の巻て雨降柳
種の生をまつ
春物や植ふるまつる
孔正
蒲月
梨玉
五栗
庚年
梅木
支我
五栗
嵐斎
鳥酔

三ッ葉芹　二枝ものハ物の名も言ひ芹
蓮生の翁といふれし芹や　信州
菊萌る　赤ふりのうすき毛や菊のめる
菊苗　菊苗や雲吹風の地おかつる
あるじ先な移人来さう菊の苗　上毛
猫の恋　猫の恋六日年越雪降る
猫の恋あふ末猫のうそ猫の恋
雨来りうき恋ひめうり猫の恋
思ふ事もしのめの猫の恋

長翠　保吉　月邦　さゝを　其玉　静一　白雄　樗堂　鳳朗　積翠　好雨

鴬

鴬もなかぬ里の雪　廉志
芽ぶくも見ゆる小家かな　信州
芽ぶくもの峠そよ風や山の雪　白堂
鴬の声ふくらかす紙さし家　扇石
鴬の啼てうつろふ初ざくら　芳文
鴬や先ざくらの山の霧　巌水、
鴬も去年の枝ぞと思ふ哉　雉鳥
鴬や里の表の竹ちらき　易足
日一ツ鴬啼や一ツ寺　宇南
芽ぶくもとりわけ松の老木より　仁窓

鷹

雲雀　雲雀啼や陸奥の果ての果

鷹三
孔雀
素行
春雪
苣丸
千春
長翠
弦武
雨紅女
長翠

忠丈
孚石
連志
霞羨
孤星
芦舟
梨玉
茶静
可厚
貞雄
庸志

二三
小哉
上サ一澄
上毛嵐月
吉斎
桐居
老雀
傾西
玉芝
白雄

積塔

二日灸

種卸

可厚
桑布
素雀
茶静
連志
百丈
叢
蕪村
有木
可月
雉嶺

苗代　　粒々皆辛苦

苗代の表水鏡なす空もまた
苗代や玉苗やうの稚草より
苗代もうつくしよ朗らかに
苗代もうつくしよ朗らかに
稲葉山時鳥聞く苗代や
苗代や日く暮くれ残る
苗代や田子の浦より
苗代はこきまぜやすき
苗代や苗代田
一ゆらぎの蒼うや苗代田
箱こゆく云ふ声も苗代田
苗代田はらんの
苗代や苗代田

春の空　　盗まるゝ宝もあらん春の空

三宅彦
燕村
葛三
巣兆
荷乙
斗米
菁々
霞裳
玉仙
菊更

春の日　　臘月

行く春や逐ふ人をしむ人
行く春や鳥啼き魚の目
行く春や重たき琵琶の
行く春や鳥啼き魚の目
行く春や鳥啼き魚の目
行く春や鳥啼き魚の目
行く春や鳥啼き魚の目
行く春や鳥啼き魚の目
行く春や鳥啼き魚の目
行く春や鳥啼き魚の目
行く春や鳥啼き魚の目
行く春や鳥啼き魚の目
行く春や鳥啼き魚の目
行く春や鳥啼き魚の目
行く春や鳥啼き魚の目
行く春や鳥啼き魚の目

桐居
十人
悠々
謙々
白雄
長翠
葛三
月居
乙二
芳国
茶静

朧夜　信州　一耕

春の夜　儿董

麥の秋　長翠

麥の秋や行燈さそふ　成美

麥の秋や行燈さそふ雨の滴　長翠

麥の秋や行燈さそふ雨の滴　青蘿

麥の秋や行燈さそふ雨の滴　萄三

麥の秋や行燈さそふ雨の滴　士朗

菜の花　春岱

青麥　仙化

大根の花　芦舟

野大根　椿海

雨枝　塔山

苣崩　碩斎

蓬国

一具

清女

静雨

早蕨
蕨
狩脊

以吉　如毛
巣兆　春嶺
里月女　友我
葛三　栄李
茶静　三平彦
静雨　乙二
呉翠　三平彦
成績　春嶺
鳳石　三平彦
碓嶺
志丈

雀の子
引鴨
小鳥引
鳥交

雀なと巣よりおりそめて
雀の子ちゝよ母よと呼ふ
引鴨や一羽二羽と数ふる
小鳥引一山の名を人に問ふ
鳥交山の名を人に問ふ

鶯　長翠
春鳥　成美
鳥の巣　保吉
　長翠
　三平彦
　白雄
　闌更
　長翠
　八朗
　東皐
　蕪村

鹿角落　史弄
春の海　重厚
　春鴻
　長翠
　蔦三
　静雨
　秀波
　梅木
　花江
　茶徑
　梅野

春の雲　多加作や海よ空うけし春のそら
　　海青青やゆく春の雲
　　かすみ川や屋くて春の影も春のそら

春の山　まくら一つへ春の山
　　陰の一つの一里ちかし春の山
　　鞍なの鈴るふもとの春の山
　　手習ひよ越しくなりし春の山
　　十そうり一つまなうねまの春の山
　　手枕よはなくまのりる春の山
　　流るるまくまみさくまの春の山
　　家ごとを拾ふこんまの春の山

長翠、左ゝ不　蘭更　長翠
乙二　嵐外　梅室　茶静　浅香女

桃

汐干　大船もかゝるほどの汐干かな
　　汐干潟信濃路かけて春の月
　　吉き世の釣拾ひけり桃の浜
　　桃のかゝる桃あるこそのうれしけれ
　　江の島や桃の中なる弁才天
　　桃の日や三つのすみれ花を捨ておろせ
　　桃咲くや御前の額の新しき
　　桃咲くや御前の額のやうなる五重の塔
　　二月から汐干の潮のやうけて桃の出おこるほどあさるほどあさりかな

一具　雞周　梨玉　保吉　蘭更　長翠　葛三、巣兆　升六　蒼虬

多くの春の情や消ゆる　信州　五山

鳳石
啄秋
茶静
一燈
麓水
積翠
櫻圃
易足
孤星
祖郷

梅室
茶静
志丈
梨玉
ちるき
淇竹
斗従
雉鳥
小哉
葛守

曲江　二十二
維石　信州
孔正　孟光
春樹　梅暁
景山　春雪
梅野　啄秋
省古　武州

士朗
可都里
成美
素檗
巣兆
申斎
月居

椿堂
桂吾
梅室
鳳朗
譲物
一具
露園
瑞雄
荷乙
孤村

櫻

擽堂
月居
旧國
雅嶺
静雨
与琢
史弄
閒鳥
一翠
雪明
好雨

姥桜　まちくしもの散る日を歌ふ
児桜　もの名ゝうつくしまるる姥桜
家桜　枝ふりも家くしけなや児桜
庭桜　もの世や家よりそゝる家桜
桜鯛　桜鯛小皆も金布の幸ゝ外

川二
業丶
雉嶺
さゝふ
筍三
雉啄
業
二三
小哉
雉嶺

白雄
几董
長翠
成美
三平彦丶
葛三
巣兆
謙々
禾木
春嶺

あのくまよりも夜を
菫花や小き見しは
淑あらそ咲そろひぬ
変幻の法衣のそろ
ての花の鉢のかな
ろそ文ふのろそ菫
一枝うそ雛ふ小
菫さくらの四ふの
骸ふれ乳ふあの
原行燈の雫かの
菫ふまるそ小男うれ

山吹

山吹や一重八重折〳〵もよく
山吹の折るゝもよく折〳〵もよく
山吹やさま〴〵折るゝ雨の雫
山吹や三面八重折〳〵けるそあらん

好雨　二三
信州　月桂
五調　弥夫
白雄　長翠
保吉　三千彦

麥鶉

〳〵〳〵と鳴のうらやむ書畑や
志賀もわれ埒あけて来て書鶉
人〳〵のうたゝねうらやむ麥鶉

呼子鳥

麥畑や呼子鳥なく〳〵ゆく
うぐひすのこゝろもとめよ呼子鳥
見初しは八月末也呼子鳥
旨そうな声をまねるや呼子鳥

時鳥

時鳥や本堂の柱つゝき山
時鳥ふるき代の陸の奥

志文
麗水
左京
孤星
巣兆
壷半
松兄
旬光
白雄
麓水
白雄

蚯蚓

壬生踊

保吉譲物

阿弓長翠

弧村傾西

保吉有月

連志梨玉

三千彦

行春

静雨、南楚

二九吉斎、

素弓月邦

菜布雨紅

玉儀

春過ぎて夏来るらし白妙の衣乾したり天の香具山　三平彦

春惜　春ゆくとさくら花さへ散りぬるを何のなごりに我が身ながらむ　月桂

春尽　春霞立つや弥生の空ながら名残惜しくも暮れ行く春かな　月居

春暮　誰そやとよそながら袂を草の蔭　静雨

夏之部

更衣　山里や一筋道の松の木の緑も深く衣がへして　葛三

初袷　振袖や博多の帯や博多縞まだ不二ながら初袷　春嶺

初袷　郎女子のうすもの雲もあり月もあり初袷　聞鳥

志丈

連志

玲珠

久雄

十時庵を時雨せめて庵の袷よ朝寒も馬柔らかに着る袷哉　椿州

雄嶺

長翠

朝仕度未着重ね着る袷哉　三千彦

仝

古裕

巣鳥の物紙よ裕卯
一酒を行よあるめ裕時
時よ四三のよ裕卯
裕著よ巣よ句よ
二日まてよよ裕卯
立よよも居よふ安き裕卯
母のよ年仕よて名よき裕卯
名よ年老の裕卯おさよも
歌日も立多て著到る裕句
巣よよふ囊よ仕まる裕雅
翌日を約よよ忘まん古裕
夏のよ仕れぬよを約七古裕

巣兆　孤村　一耕　胡蝶　梅野　全　工老　成績　五山　千柱苑　玉成　乙貞　ロスト嶺　幸丸

明安

裕卯あきよおよよてもあるよのあ
明安一安の時よる月紙よる
夕のよもも仮のよ年名仮まき
加茂祭
時よよを汗よ志仮ほイ一紙よる
上加茂や祭やよ下北園乃も
不動そう月の川勝まよ紙ふ南
加茂の祭り儀よよる紅部
夕立暮よも高千仕よよよよ
もも名仮ほイ一紙よる

葵

人をよよ人のあるよ
賀の龍の砕葵よ
興まて花のちいまあ四ひ部

曙山　武州　有田　江戸　由誓　静雨　丈甫　梅守　来布　梅守　確嶺　巣兆　奇淵

立葵
灌佛
佛生會

一聯二句

由誓　連志　行脚　丹堂　葉居　武曰　白雄　士朗　葛三　連志　几明　白雄

杜若

蕃椒（甲州名物）
杜若今咲ク
旅ヲ居ス
杜若
廣澤ノ一輪ノ
杜若ヲ
夕時ヲ
文領シテ大立ヲ
太刀持ノ
昌ル
ル
杜若
ル花
杜若
ル

月居　丶
葛三　八
蕉雨
蒼虬
西月
梅室
一薫
荷乙
旬光
孚石
五栗

義しく蕾れ出るより杜若　古河
又忽ち萎れ去るより杜若　松吹
瞬よつく凋の先そうきつそう　蘭皐
芍薬を畑のうち　萩畑　二三
芍薬の剪うけの　三千彦
芍薬の刈ま　梅野
一八や旅もうく人の　碓嶺
一八や雌をうく庵の　曲江
弐尾咲や寺山ちかう　孚石
垣根ともぱくぬ　三千彦
弐尾咲やけふを　孚石
弐二日もうしきるからや　一桃
弐尾の花　淇竹

若葉

艸の若葉

病葉

茂

那よつくうく　如交
達よ男もつ　芳石
弐の弐ま　長翠
艸よく毎　左く
病ま　五調
病ま　左梁
わくく人多き　袁久
病ま　掘芝
七曜乃　春鴻
義しく　三千彦
町中の塔の　仝
弐のよう　長翠

長翠
葛三
亀丈
一其
静雨
仝

上州
やそき
阿弥
杵白
白水
易足
菩丸

鶏周
田齋
吳翠
巣兆
雛嶺
葛三
三十麥
ハ

蒼虱
まさは
一葉
志丈

上州
數指
桐の花

丹後

楓の花　相馬や小家のうら　雉鳥

葉櫻　老ぬまた楓のそだち　文玉

人さまざまに楓のうつり　左文

雪原の山乃姿楓　又ぬりかへ　大江丸

姿楓や一本の色彩もうつる世を　長翠

姿楓や一本井の風の山　三千彦

葉櫻や岸高志めろ漕ぐ　机

葉櫻や岸に見えかくる人の舟　秋臺　武州

葉ざくらや一世夢の如くにて庵の名　松葉女　武州

櫻やや一世夢の如くにて庵の名　久雄

櫻や一世夢の如くにて庵の名　三千彦

櫻や一世夢の如くにて庵の名　長翠

竹の子　竹の子や北神ますます強き月若竹　信州

初茸　世のつまでさきつけて世を忘れ貌

老ぬまた形や初茸　初茸

新築ならべ家ごとそろひ初茸　初茸

備前焼すゝ茸の色　初茸

美しさの雨ある初茸　初茸

夏初るまゝ物を初茸　初茸

初鰹　夜船といろをそろへし初鰹　初鰹

湯気そゝ春のほのぐらき初鰹　初鰹

葎苑　文耕　蝶夢　春鴻　琇林女　祖郷　花光女　揚風　雪明　白雄　卓池　可布

初時鳥

子規

竹烟　松吹　丹後半嶺　五明　擽堂　月居　可布　白雄　ヽ
涼湖　ヽ　ヽ　ヽ　ヽ　ヽ　ヽ　ヽ　ヽ　ヽ
ヽ　ヽ　初鰹　初鰹　ヽ　ヽ　ヽ　ヽ　ヽ　蕪村

岳輅　月居　錦衣女　河道　蕉雨　乙因　庸扶　秋摯　旬光　荷乙　ゑの代女　孚石　蜀魂

鬼國
春嶺
全
芦文
鳳石
嘯月
桂月女
春朗
有臺
友我
桃仙
老霍

行々子

雎鳩の巣
鳰の浮巣

三平彦
亭石
有臺
松吹
大江丸
春鴻
乙二
申齋
護物
虚白
鳳朗
梅室

老鶯

蝙蝠

三十彦、志丈
連志
桂月女
葛守
梅窓
五十二
巣兆
護物
叢
積翠、

蚊遣

梅間、
八朗
狐村
素雀
志丈
孚石、
鉄夫
春嶺
千枝
芦文

梅木　蘆水　梅守　泊舟　千秋女　清湖　九霄　南楚　露園　易足　梅居　積翠

信州

長翠　可都里　巢兆　成美　桐棉　篤老　梅室　大梅　百穐　旬光　孤村

自ふと思ひ初めもてゆくほどに
世の業よりは面白く覚えて
杉苔のふるき跡
川柳の形をも
雅遊より学びいでて
学遊びて思ひ
学ぶ事も
一夜二夜ちかく
月もうつもれ
学ぶもあり
遊ぶまでに
学ぶ人よ流れ
学ぶ人生を

静雨
素霍
志文
孚石
鉄夫
春嶺
千枝
叢鵞
楓星
芦文
梅木
麓水

杉のそこのくろきに人をみおくりて
ほろほろとなきいでよ杉の雫
杉苔のふるき跡をとふ人も
跡をも閉て居て
面もくらんも
おのづから
簡なるもせいろ
杉風舟圃をも
思ふ
唯一の杉
庵をも
睦の杉

全 卓池
文玉
二九 孔正
古狂
老霍
涼湖
雍嶺
三千彦
全
葛三

鴉川　鄭

夜鄭

乙二　古人　碓蛍
呼童
千崖
乙二
一蕙
茶静
連志
乙良
蕉素
千春苑
花江

鄭

角粽
帷子

武口　蓼太　麥二　葛三　乙二　連志　易立　雨聽　半江　春鴻　閒更

乙二　嵐外
申齋　まさを
鵜湖　花江
仝　竹翁
ゑ代女　碌鎖
弟丸　千枝記

詠歸　狐村
靜雨　素霍
志走　鉄夫
春嶺　千枝苑
芦文　梅木
叢鷺　麓水

泊舟
蕉素
好雨
市山

白堂
川帯
梅野
易疋

桂月女

一圭
玉盛
柳玖

信洲

儿明
千古
松吹

芳文
梅木
麓水
泊舟
蕉素
雉鳥

千秋女

市山

若竹　若竹や内裏も採一山之事、
若竹や君が世ながらしるしある子
若竹や濡るゝ雨も青き月
若竹の雫も青き松葉かな
とく伸よとも申さゝれど
一月のうらゝ伏見の里うれしとそ
うき程を月を持つゝ竹
隣うら隣のこえも竹
起臥も気位ありたけの竹
世の中は植仕舞たる月夜哉

今年竹　兼兆
建志
好雨
松葉女
長翠
涼湖
松吹
芝蘭
素好
如洋
古狂
樗堂

竹植　叢鶯
錦八
三桂
田文
芹翠
五山
招芝
碓月女
志徳
三民
閑鳥
梅窓

茅丸
麓水
荷弓
長並
玉盛
白雄
三千彦
保吉
双湖
青犬
連志
三千彦

麓水
芦文
梅木
叢鷲
ある女
呉翠
谷川
南楚
抱琴
春雪
左梁
可月

菖蒲
真菰刈

芦丸　梅野　真橘　儿明　錦八　一蕙　梅木　清湖　市山　啸月　三千國　九霄

紫陽花
歌の花
忘草
鉄線花

芳竹　真沙美　長翠　九霄　左京　長翠　茶徑　霞湊　文崖　吉齋　碓嶺

石菖　石菖千叢飛こうくか
石菖や峠まで行う細う里
石菖や秋風もあり白いうか

夏菊　夏菊やき寺の根も青うる

紅の花　紅の花つけり
摘こまで紅の茶
思ふ程咲うぬ物あり紅の茶
誰ゆくもおるり紅の茶

糸瓜花　糸瓜花あるうしり糸瓜
酸漿花　酸漿のもう宿もまる
かくもみのひる雀と
かくそこもの文字鳴尾つ

儿童　茶静　雉嶺　護物　聞鳥　雑啄　三柱　真沙美　秋堆　乙二　ハ　樗堂

蝉　蝉の声ひそ〳〵蝉雨未開うか
きえ乃根の如そ聞うる蓼の根
ひそ〳〵と亜蝉のあり雄蝉
日の午蝉のくうこそ言

羽抜鳥　如何ほくうる白うる羽抜鳥
雨降まいぬるはの多一羽抜鳥
白蓮よ雨日さうあり羽抜鳥

翡翠　翡翠の跡そ花菖蒲
鬼　鬼百合や深谷沼をねぐ鬼乃

連志　方舟　長翠　三十彦　露薬　雉嶺　太祢　梅守
連志　麓水　史弄

鹿子　鹿の子絞の事を言ふ
　　鹿の子餅の事をもいふ
蚊遣　蚊を逐ふ火をもいふ
火串　燧ちをも入れ
　　焼いちをも串さすをもいふ
　　又その串の事をもいふ

一耕　三十疋
涼湖　八明
確嶺　護物
蘭更　長翠
錦水女　可布
茶静

氷室守　氷室守をいふ
氷餅　氷餅の事
夏氷　夏氷の事
川狩　川狩の事

富士詣

凡雨　護物
保吉　逢交
啄秋　左京
白雄　晴月
涼湖　桂月女
一薫　確嶺

祇園會　祇園會いつの日のほどゝ名ぞゝ
祇園會や夜の氣色もかゝ
祇園會や新き女房いかゞゝ
祇園會や人の肩越しに見る
夏日　五のほの幕のうちゝ
炎天　炎天や坐禪一具
日盛　日盛や西も東も加佐郡
　　日さかりや隣もあくび
暑　暑き日を蓋とし寺の
　　一聯二句

斗筵　乙人
南樓　千秋女
白若　市山
雉嶺　露寶女
一具　里貞女
左ゑ門　涼湖
奈靜　清湖
靜雨　千古
半嶺　梅守
茶禪　芳文
保吉　狐星

夏の月

くもまつもまつ夏の月
不動もとゝろきとゝろく夏の月
海山をかすめて夏の月夜哉
ふり上る滝にくもりて夏の月
神もいでてうつくしさよ夏の月
山の端いまだもとく夏の月
湯もるまもほとゝぎす夏の月
毎一切人の上にあるゆる夏の月
夏の月更て再び夏のこゝろ
夏の月夏のこゝろをもとめ
柿くふ柿よ更行夏の月

叢鶯　歩丈
古荘　、
、　甫十
千狹　素行
、鳳石　花江
茶徑　省古
谷川　一志
易足　鳳石
文雄　北亭
一水　壽磨
秋鯉　竹翁
　　蒼山

雲の峰

一燈
いつ
謙々
月久
糸友
榮季
かほる
長秋
左ゑ
白雄
士朗
成美

清水

柳居
三千彦
いつ
成美
乙二
いつ
曰人
鳳朗
空阿
吐丈
斗従
春幾

北亭
千於兒
千春
長荘
林霞
五什
雨紅女
蓼苑
如交
川帯
有田
正阿

蓮

白蓮のあやしきまでに行きあふ
蓮うゑてくさのむすめの浮業あまいほもあれ吹蓮
蓮の浮葉あまいほもあれ吹蓮
蓮の立葉首傾うけて
蓮の紫いろそめぬ蓮舎
あふうちよ酒いまそ
蓮の枝や歩よう
蕭れ蓮や志賀へ別るゝ
蒲の穂よ由ふく風の吹
蒲うち蓮や抽へつ

鳥明
長翠
島湖
梅山
三彦
蓬交
長翠
祖卿
芥翠
谷雀
半嶺

蒲の穂

白粉花　白粉の如き玉入の掃ゐもの
夕顔　夕顔や紺屋の染の掛ならび
夕顔や物の上ある秋の雲
夕顔や二階ざしきの人ばかり
夕顔のむさくるしくも雨戸哉
夕顔の花や藤よりくるる毎の老
夕顔よ舎を定めず餌さがし
夕顔やいつも雨戸をたてかねる
夕顔やこゝも乞もの立ならび
夕顔や家ごもり蚤をとりながら
夕顔や中ふく越えてくる
夕顔や花よ冷くし寒の揚

静雨
蓬交
白雄
蘭更
保吉
長翠
、
三千彦
、
巣兆
、
應々

眼波花　その昇るや朝日の影
つきくさや歌けん人も眼波の
水汲の暮や蛍を眼波の
八重葎　八重葎きのふ家と思ひけり
行く吹や花も毎年八重葎
世を捨る人もうくるや八重葎
葎の花　きりぎりすのうたふや葎より
川風を待つゝ花咲く葎哉
なの咲りけり葎の家の
見つくよ人なき葎の門

桃仙
乙良
積翠
春鴻
葛三
長翠
士朗
松翁
長荘
護物
白堂
五山

淋しき薄う郎　波女
綿の花　春鴻
　　長翠
鈎慈　文崖
鈎慈女綿を摘ミ居れバ　三子彦
姉さまハ　升六
もう〳〵まつくろ　松翁
痩畑の綿よ花うせた　京湖
綿の花　〃
天竺の濁りもの　〃
不自由ものゝ　〃
ちゞれ綿の花開く　把芝
綿のむら〳〵　佳風
紡ぎ〳〵二ツ通る糸の

非子花　積翠
咲ころねうちよりもちろりを待つ茶の
目覚よりもまだ花ちさき茶の
初真菜此　古狂
蔓あるゝ歟へありくの菜
綿よ宮もと紫もゆるゝ菜
角大豆　白雄
祖母ハよ紡入月や
赤きしほの〳〵なるやさゝけ
こゝろ〳〵もよ蒸るさゝけ
豆の花　蓬文
新茶のまゝ赤もうもの
茶摘よ来い道来い
そよ〳〵お人の待つ
梅干ス　素雀
梅うれや郎呂を思ふ
梅干ハや　秋堆
雨の匂ひ
静雨

水飯　水飯や其日其日の客取もこつ
　　その飯や鹿ゝ高香取もこつ
　　ゝ飯ゝ菜の汁法もなく
葛水　葛水や夕色の空もこつぬの
　　葛ゝやうゝ夏もこつ
　　葛ゝやゝ梅一輪のほまき
　　葛ゝやゝ座振角もこつ
　　葛水やうゝ物もこつ
水の粉　水の粉や其日其日の山
　　ゝの粉や狸の面
　　ゝの粉ゝ一生のおもこつ
　　ゝの粉や淋しき中よりの
　　ゝ粉よ人ゝ如のこつ

乙二
石瞻
茶静
三千彦
儿董
松翁
荷乙
猪川
葛三
静雨
半嶺
九宵

茅の輪　茅の輪や世のゝもつをふくる茅の輪
　　ゝもつをふくる茅の輪
　　ゝもつをふくる茅の輪
夏神楽　夏神楽の末番なさゝ川
夏陣　夏陣なゝ
　　夏陣ゝ
秋近さ　秋近さ
　　秋近さ
　　秋近さ

友我
雄嶺
茶静
唫風
成美
希言
若人
三玄彦
孤村
静雨

素霍
志丈
鉄夫
斗筵
春嶺
千拳
孤星
清湖
麓水
梅守